



## 1 文化祭（芸術鑑賞会）

令和7年5月28日（水）に文化祭が実施されました。「青春宣誓」というテーマを掲げ、2週間以上前から本番に向けて準備を整え当日を迎えました。各団、各クラスが趣向を凝らした舞台発表・展示となり、賑わいを見せた文化祭となりました。



## 5/27（火）芸術鑑賞会「ある晴れた夏の朝」劇団うりんこ

今年は劇団うりんこさんによる、原爆の是非をテーマとしたディベート作品を鑑賞しました。1945年8月のあの日を、忘れてはいけない悲惨な過去として学んできた私たちにとって、日本への原爆投下は正しい決断だったと語る肯定派の意見には耳を疑うものが多くありました。しかし、ディベートが進むにつれ、私たちが知らなかった歴史的事実や、依然として残り続けている差別問題などを、役を生きる俳優の皆さんの熟演により、既成概念に縛られ決まり事のように否定派でいた私たちに驚きの事実として伝えてくださいました。中には意見が変わったと話している生徒も多くいました。また、どちらの立場だったとしても「二度と同じ過ちを犯してはいけない」という作品を通してのメッセージに、戦争や差別問題が、これからの未来を創り上げていく私たち高校生が他人事と思わずに向き合っていかなければならない問題であることを示してくださいました。高校生であるこの時期に、この作品に出会えて本当に良かったと思いました。（文：生徒会役員）



## 2 国際交流活動（パスコベール姉妹校受け入れ）

ホストシスターを8日間経験して、最高の友達ができました。最初は自分自身、英語に苦手意識を持っていたこともあり不安でした。最初はあまり会話も弾まなかったのですが、日曜日にジブリパークへ行ったことを通して段々と会話するようになり、正確な英語でなくても気持ちを伝えることは出来るということ学びました。相手の子はアレルギーがあり、何が好きかどんな物がどれほど食べられるかも分かりませんでした。とにかく会話をして楽しく一緒に食べられるものを探しました。水曜日の夜、中がウィナーのたこ焼きを一緒に作りました。苦戦していましたが、とても楽しそうでも嬉しかったです。他にも家でお互いの国のルールを説明しながらトランプをしたり、浴衣を着たり、手持ち花火をしました。

相手の子は「自分はシャイだ」と言っていました話しかけると沢山話してくれて、発音の違いや、文化の違い、オーストラリアで流行っているもの、訛りなどの会話が出来るととても有意義な時間だったと思います。時間が無くてやりたいこと、連れて行きたいところ全部ができなかったのが残念ですが、日本にまた来るそうなのでその時挑戦したいと思います。（美里中出身 藤原 愛華）



私は先日、パスコベールの生徒を家に迎え約1週間一緒に時間を過ごしました。はじめは言葉や文化の違いに不安もありましたが、日々を共にする中で自然と打ち解け、少しずつ心が通い合っていくのを感じました。言葉が通じなくても、表情やジェスチャーを通して気持ちが伝わる瞬間があり、人と人とのつながりの本当の力に気がされました。また、異なる文化や価値観に触れることで、自分の当たり前を見直すきっかけにもなりました。ほんの短い時間でしたが、別れの時には名残惜しさで胸がいっぱいになりました。この交流を通じて、世界は広く、そして温かいと実感しました。これからも出会いや経験を大切に、学びを重ねていきたいです。（藤岡南中出身 市川 陽菜乃）

## 3 部活動紹介

## 吹奏楽部

私たち吹奏楽部は、文化祭のステージ発表を終え、現在は朝日コンクールに向けて練習に励んでいます。金賞を目指して、パートごとに音を磨いたり、お互いの音を聴き合いながら、自分たちで練習を積み重ねています。ひとつの音楽をより良く創るために、仲間と真剣に向き合いながら、最後まで全力で駆け抜けます。これからも応援よろしくお願ひします！



## 4 先生紹介

渡邊 真帆 先生  
(家庭科)

渡邊先生はとても親しみやすく、生徒思いの先生です。家庭科の先生で、学年問わず関わることのできる先生で、話しかけると笑顔で応じてくれます。

女子バレーボール部の顧問と陸上部の顧問を兼任しており、部員とコミュニケーションをとりながら、一緒に活動してくれます。「真帆ちゃん」や「真帆ちん」などのあだ名で呼ばれたりしてとても明るい先生なので会ったときは話しかけてみてください。

